

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2026年07月分)

ご協力ありがとうございました。2026年7月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 141 回答 130 回答率 92.2%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	15社	15社	53社	32社	15社	130社
	11.5%	11.5%	40.8%	24.6%	11.5%	
	(13.5)	(20.3)	(36.8)	(16.5)	(12.8)	
売上高	15社	22社	48社	26社	19社	130社
	11.5%	16.9%	36.9%	20.0%	14.6%	
	(14.3)	(21.1)	(34.6)	(18.8)	(11.3)	
在庫数量	9社	22社	59社	25社	10社	125社
	7.2%	17.6%	47.2%	20.0%	8.0%	
	(9.2)	(14.6)	(50.0)	(20.0)	(6.2)	
販売単価	6社	44社	66社	13社	1社	130社
	4.6%	33.8%	50.8%	10.0%	0.8%	
	(3.8)	(31.1)	(50.0)	(12.9)	(2.3)	
収益状況 (粗利)	15社	28社	52社	27社	7社	129社
	11.6%	21.7%	40.3%	20.9%	5.4%	
	(11.4)	(23.5)	(40.2)	(18.9)	(6.1)	
稼働率 (生産・加工設備)	4社	20社	63社	20社	7社	114社
	3.5%	17.5%	55.3%	17.5%	6.1%	
	(5.1)	(15.3)	(49.2)	(21.2)	(9.3)	
入出庫の トラック台数	3社	20社	63社	33社	8社	127社
	2.4%	15.7%	49.6%	26.0%	6.3%	
	(3.9)	(19.5)	(47.7)	(21.9)	(7.0)	
現在の 景況感	0社	11社	54社	44社	18社	127社
	0.0%	8.7%	42.5%	34.6%	14.2%	
	(0.0)	(6.2)	(42.6)	(37.2)	(14.0)	
3ヶ月後の 景況予測	1社	20社	87社	16社	4社	128社
	0.8%	15.6%	68.0%	12.5%	3.1%	
	(0.0)	(8.5)	(61.2)	(26.4)	(3.9)	
特記事項						

注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(2026年7月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 中東情勢の影響による原材料・資材の調達難は緩和傾向にあり、供給面での不透明感の後退している。需要全体は依然として力強さを欠くものの、トラック分野は底堅く推移している。また、メーカーの値上げ方針を背景に国内市況はじりじりと上昇しているが、需要回復は限定的であり、価格転嫁には慎重な対応が続いている。流通段階での価格転嫁は容易ではなく、慎重な対応が続いている。
- ② 7月の販売量は、前月(6月)に値上げによる仮需が発生し増えた分、その反動により、仮需前に完全に戻る結果に終わった。同じ表面処理鋼板(亜鉛メッキ)でも、AD対象になっているGIについては、今後値上げスピードも上がっていくだろうが、EGはAD対象外。依然として安値が出てきている。

中板

- ① 中板は需要面に大きな変化はなく、引き合いは低調。メーカー値上げ以降、強含みの展開を維持しているが、7月に入っても需要の低さから各社売り腰は弱く、市況の上昇には一服感がある。値上げ玉の入荷に合わせ価格は上伸基調にあるが、今後の需要次第と思われる。

厚板

- ① 建設機械は、引き続き中東情勢の不安定により、売上の減少が続いている。店売り関連は、資材高騰の影響、人手不足もあり、売上が減少している。
- ② 受注状況に大きな変化なし。足元のスクラップ価格下落が不安要素。

一般形鋼・H形鋼

- ① 全体的に値上げが進んできている模様。8月は稼働日数も少ないため目先は少なくなるが、年末にかけて案件も出てきているため心配ないと思われる。

- ② 7月は6月と横這いの出荷状況。梅雨明け以降連日の酷暑で現場は疲弊。8月は一層暑さが厳しくなることによる能力ダウンはやむなし。しかし、下期以降の引き合いが徐々に増加傾向にあり。今は来るべき需要に向け採算改善に取り組む。
- ③ 製造業向けに7月は販売できた模様。販売数量が前年同月比減少するも収益状況はやや改善した。8月は営業日数が激減するが、7月のトレンド次第ではないか。9月以降は建築需要の不振が市況の足を引っ張るのではないか。
- ④ 資材高騰や人材不足で現場の動きが悪いため、施工のスピードが遅く、前工程の進みが遅い。

異形棒鋼

- ① メーカーのコストアップによる値上げ方針は理解しつつも荷動き不振、スクラップ市況下落の影響もあって、7月中旬より流通段階の値上げ転嫁は進まず、採算的に苦しい状況にある。
- ② 7月の動きは良かった。

平鋼

- ① 7月の倉出し定尺出荷は、6月比で日量横這いで推移している。7月後半から夏季休暇前の駆け込み需要があり、倉庫・加工工場共に数量は伸びている。特に工場のSPL加工は夏季休暇前後に納期が集中している状態。8月後半の物件も受注が入っているので、予想以上に山積みは高い状態。また、メーカーの値上げ玉も入荷しているので、引き続き価格転嫁を進めていく。
- ② 春先のメーカー値上げによる仮需分がなくなるタイミングだが、需要不振のため追加発注来ず数量が伸びない。価格もメーカー値上げ分の半分しか転嫁できず苦戦している。

軽量形鋼

- ① 受注量は横這いが継続。今後微増傾向はうかがえる。

構造用鋼

- ① 需要は自動車関連で中部地区を除くと力強さに欠ける。建機関連は堅調、工作機械、半導体関連は好調を維持している。在庫数量は適正水準の横這い。価格はメーカーの今春の値上げ分及び労務費、輸送費等、流通コストを含めた価格転嫁を展開中。

磨棒鋼

- ① 自動車向け紐付き品は、相変わらず一進一退の状況が続いている。建機向けは、若干の回復が見られたが、勢いを欠いている。店売りは引き続き低位のまま。素材価格の値上がりを受け、価格改定の最中。各顧客とも概ね理解をいただいている。

その他

<スクラップ>

- ① 7月のスクラップ相場は、1ヶ月で約5,000円の下落。主な要因は、国内外ともにスクラップ需要が低迷していること。スクラップ自体の価値が低下している訳ではないので、需要が回復すれば相場も自然と戻ってくるものと予想する。

<金属表面処理>

- ① 7月は紐付き、物件物共に計画通り。スポットも明細が増え、扱い量増加となった。一部の塗料は入荷遅れもあり待ちの状態。シンナー関係は通常に戻りつつあるが、メーカーより過剰手配は控えるよう依頼もあり、調整しながらの操業。購入価格についても高止まりの状況。8月は稼働日が少ないこともあるが、引き合いは増えてきており、操業度は高い水準を見込む。